

## 弥生墳丘墓と特殊器台

安 川 満

### 【講座の概要】

#### 1. 弥生墳丘墓とは

弥生墳丘墓とは弥生時代の盛土や墳丘をもつ墓を前方後円墳に代表される古墳と区別する呼称です。弥生墳丘墓が出現するのは前期中ごろの畿内のようなようです。当初は、墳丘の中に多数の埋葬施設があり、「家族墓」的なものでした。しかし、墳丘を持った墓に葬られる人たちとそうでない人たちの「区別」や「格差」が現れてきているといえます。

墳丘墓の中で少数の埋葬が卓越してくるのは弥生時代後期後半です。また、このころから墓制の地域色が非常にはっきりしてきます。これは権力者と言える人物が現れてくることと同時に墓制を共通する地域的なまとまりがはっきりしてくることを示しています。

#### 2. 倉敷市楯築弥生墳丘墓

楯築弥生墳丘墓は倉敷市矢部の丘陵上にある墳丘墓です。直径 40 m ほどの円丘部の南北に突出部の付く形態をしており、墳長 70 m ほどに復元されます。木槨木棺墓の中心埋葬、巨石を立て並べた墳丘、特殊器台や旋帯文石を用いた埋葬祭祀とどれをとっても画期的な墳墓といえます。特殊器台が用いられた最初の墳墓であり、これ以降吉備の埋葬祭祀における最上位の祭器として定着していきます。しかし、吉備ではこれほど傑出した規模の墳丘墓は以降築かれませんし、突出部や巨石を立て並べるものも現れません。

#### 3. 特殊器台

器台はもともと集落で農耕祭祀に使用される土器として出現すると考えられていますが、巨大な墳墓を築くような権力者の出現とともに、非常に大型化し、複雑な文様で飾られる墳墓専用の器台—特殊器台—が現れます。特殊器台は非常にキッチリとしたきまりのもとに作られているようです。下から脚部、文様帯 4 段間帯 5 段からなる筒部、頸部、受部という構成がその一つです。かくせんせき角閃石という鉱物を含む褐色がかかった胎土が特徴的で、特別な粘土を使用して作られたと思われる。文様帯には組帯文と呼ばれる水引のような渦文が特徴的です。また使用においても、特殊器台・特殊壺のセットをもつ墳墓、装飾器台・装飾壺をもつ墳墓、特殊壺しかもたない墳墓などの「ランク」があるようです。

この特殊器台はやがて古墳に並べられる埴輪へとつながっていくと考えられており、ヤマト王権成立に吉備の首長たちが大きな役割を果たしたと思われます。

### 【参考文献】

近藤義郎 1983 『前方後円墳の時代』 岩波書店

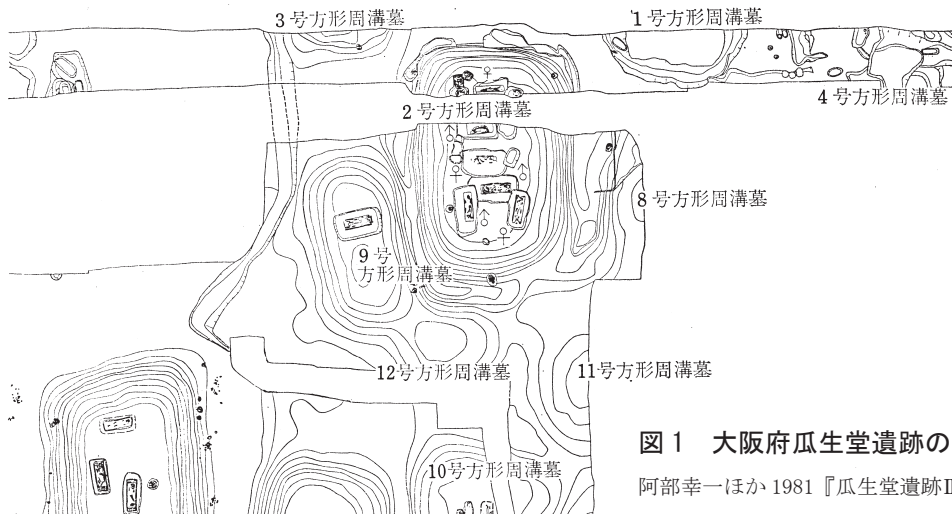


図1 大阪府瓜生堂遺跡の方形周溝墓

阿部幸一ほか 1981『瓜生堂遺跡Ⅲ』瓜生堂遺跡調査会

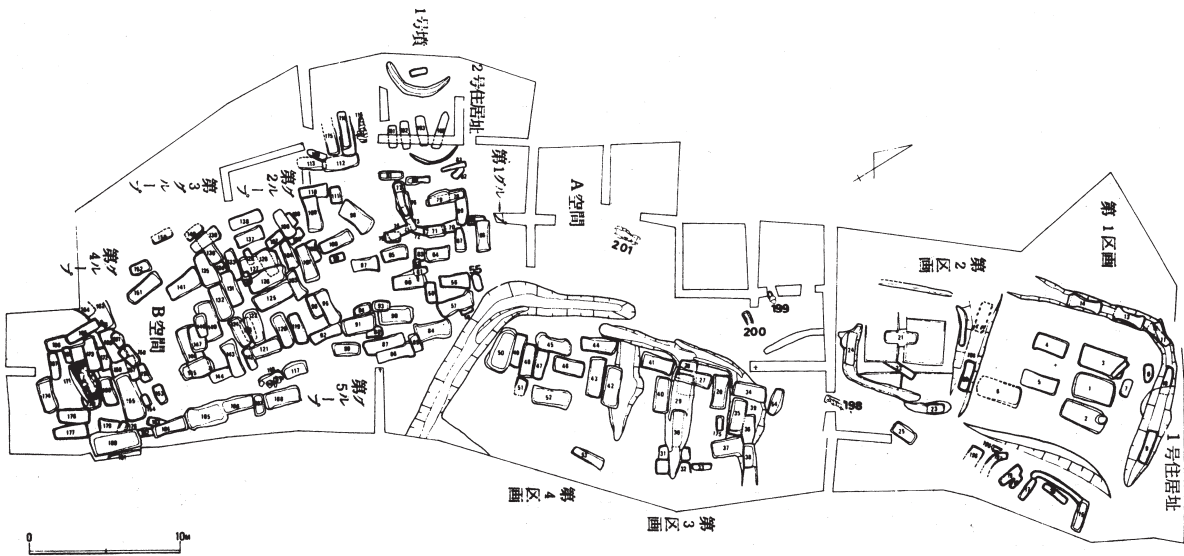
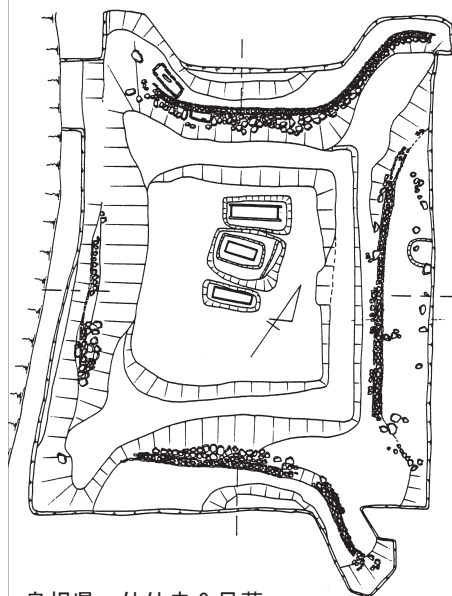


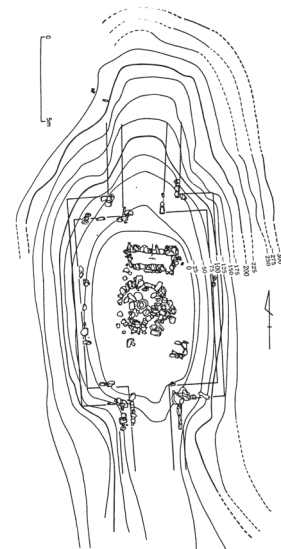
図2 真庭市中山遺跡の墳丘墓（方形区画墓） 山磨康平ほか 1978『中山遺跡』落合町教育委員会



香川県・鶴尾神社4号墳  
真鍋昌宏 1983『鶴尾神社4号墳』『香川の前期古墳』

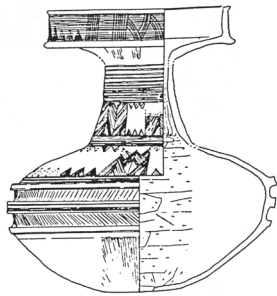
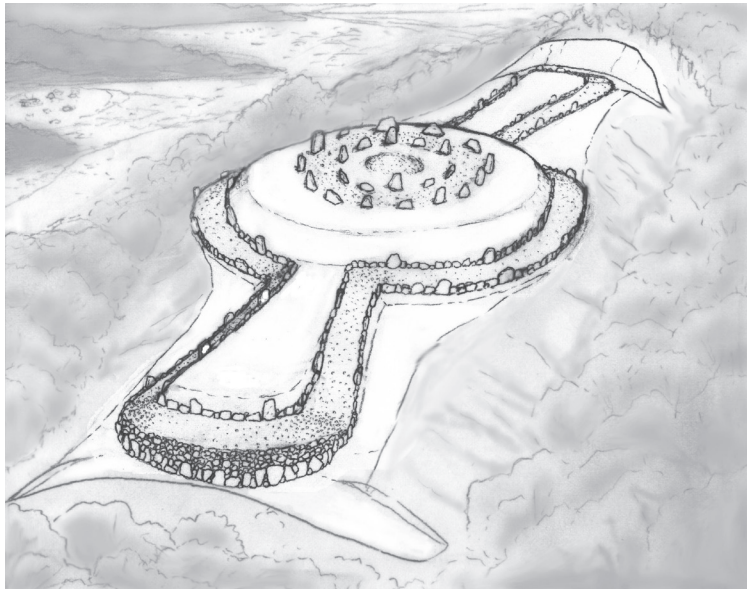


島根県・仲仙寺9号墓  
近藤正 1973『仲仙寺古墳群』安来市教育委員会

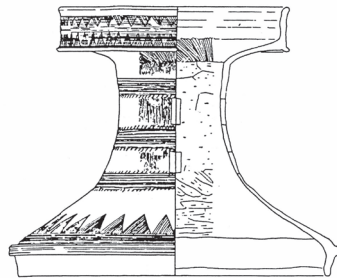


兵庫県・養久山5号墓  
加藤史郎ほか 1985『養久山墳墓群』揖保川町教育委員会

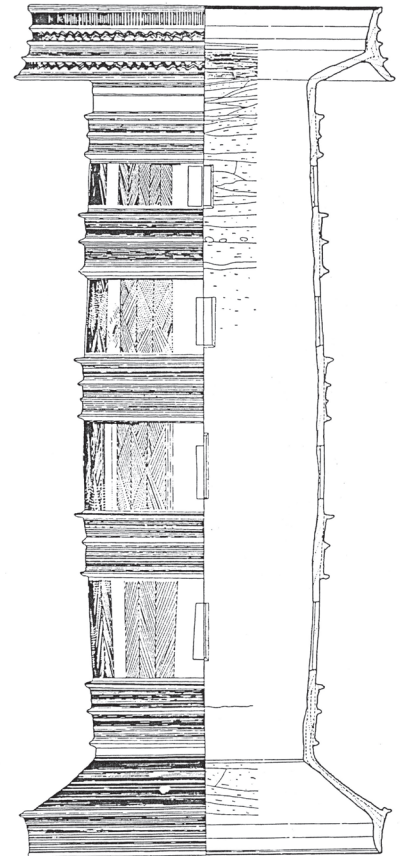
図3 各地の弥生墳丘墓



特殊壺



裝飾器台



特殊器台

図4 楯築弥生墳丘墓（想像図）と特殊器台  
近藤義郎ほか 1992 『楯築弥生墳丘墓の研究』 楯築刊行会ほか

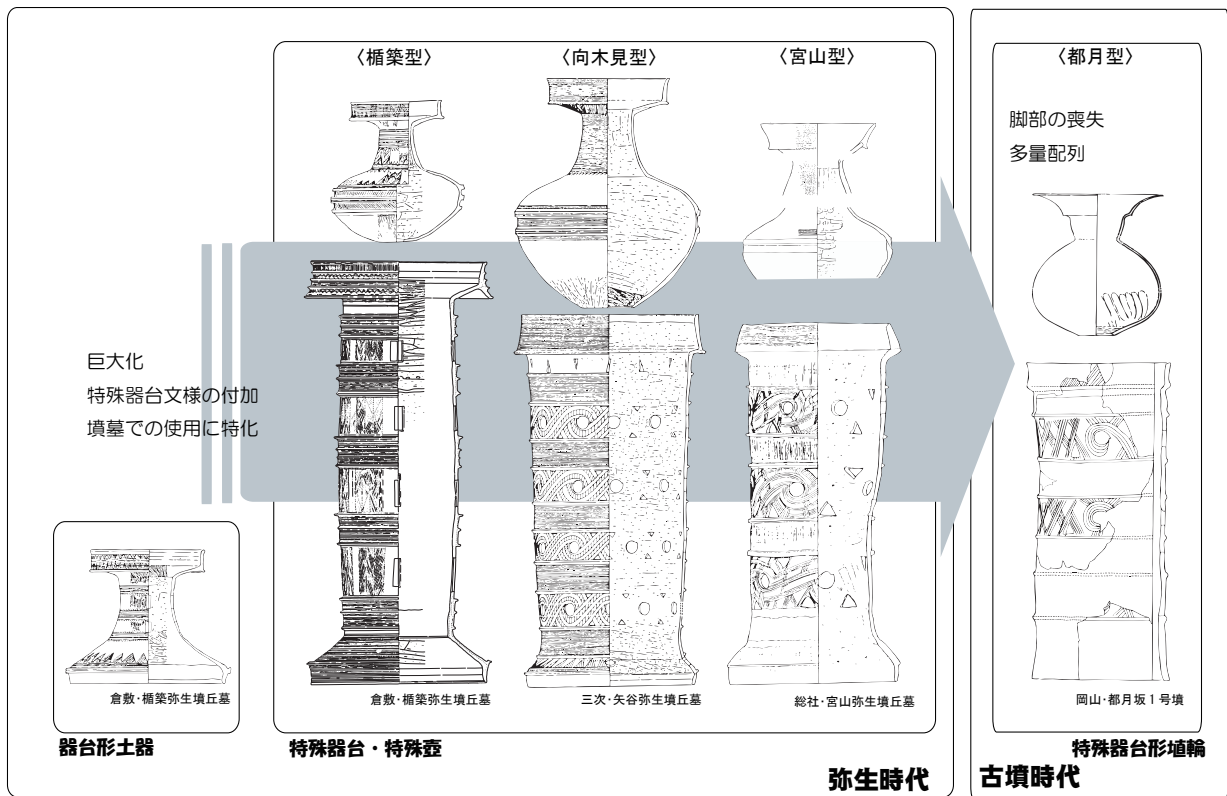


図5 特殊器台の変遷

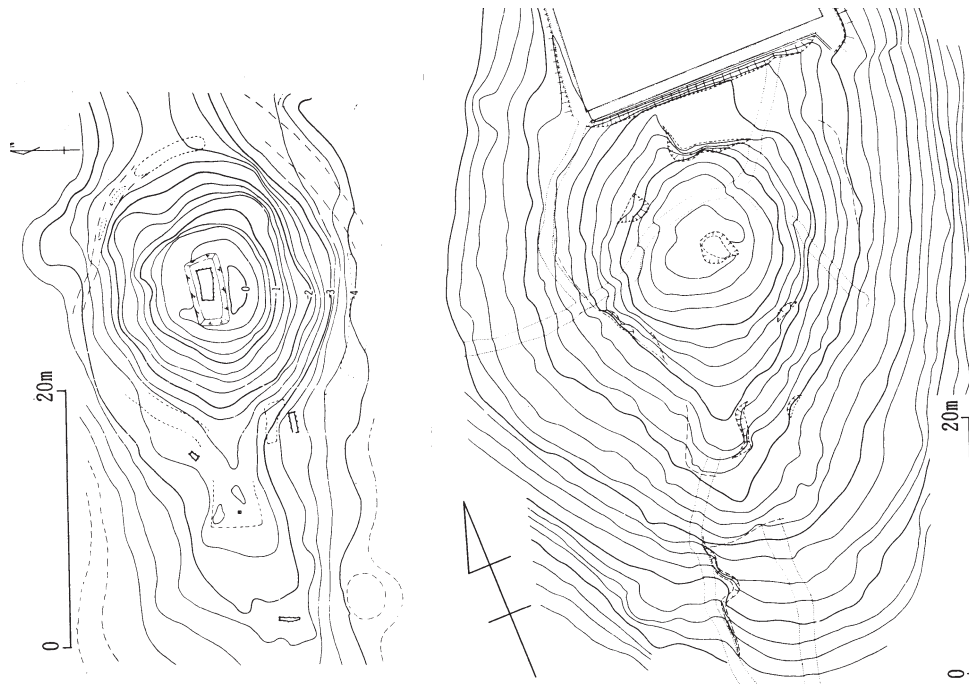
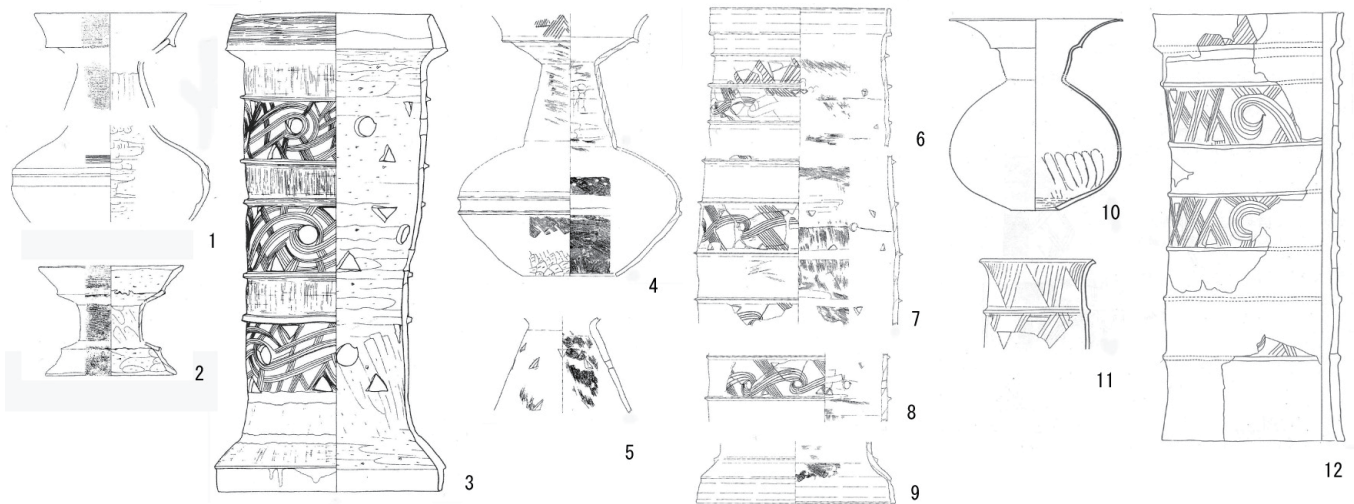


図6 総社市宮山弥生墳丘墓（左）と岡山市矢藤治山弥生墳丘墓（右）



1～3 宮山弥生墳丘墓（注24文献）

4～9 矢藤治山弥生墳丘墓（注25文献）

10～12 都月坂1号墳（注1文献）

図7 宮山弥生墳丘墓・矢藤治山弥生墳丘墓の土器群と都月坂1号墳の埴輪